

**兵庫県高校生向けヤングケアラー実態調査業務公募型プロポーザル  
にかかる質問への回答**

No	質問	回答
01	回答方法は一般高校、特別支援学校向け、ともにweb回答のみとなるか。紙媒体の調査票を用意する必要はあるか。	回答方法は両校とも web 回答のみとし、紙媒体の調査票は要しません。
02	調査対象となる高校名、依頼文等の送付先の一覧は県より提供頂けるか。また、各校への調査の趣旨説明・調査協力依頼等は県にて行うか。	送付先一覧は県より提供します。 また、学校への趣旨説明・調査協力依頼は県において対応します。
03	本調査において、県として想定している回答率の目標値があればご教示ください。 あわせて、回答率向上の観点から、ホームルーム等の時間を活用し、各校にアンケート回答のための時間確保を依頼していただくことは可能でしょうか。	回答率の目標値は想定していません。 また、アンケート回答のための時間確保にかかる依頼自体は可能ですが、実施するか否かは各校の判断に委ねる運用となります。
04	調査方法として、各校を通じて生徒に調査依頼文を配布すると記載されていますが、各校へは原則として全生徒数分の調査依頼文（紙媒体）を郵送する必要があるとの認識でよろしいでしょうか。	お見込みのとおりです。
05	本調査結果について、県として想定している公表の有無・方法（公表時期、媒体等）があればご教示ください。 あわせて、調査結果を踏まえた今後の施策検討や事業化等の想定される流れ（出口イメージ）があればお示しください。	調査結果の公表は行いますが、その方法は調査結果を踏まえて決定します。 調査結果については、ヤングケアラーの居住市町及び所属校と共有し、個別のヤングケアラー支援につなげていくことを想定しています。
06	業務仕様書5（1）実態調査業務 オ「アンケート回答の集計・分析」(イ) グラフ作成について「学校毎」に集計結果をとりまとめるとありますが、学校毎に報告書を作成する必要はありますか。エクセル等で見やすいグラフ作成をすることで足りませんか。	学校毎の報告書は必要ですが、その内容については全体版・市町毎の報告内容よりも簡素なもので可とします。詳細は県と事業受託者との協議事項とします。
07	業務仕様書5（2）実態調査支援業務 イ WEB回答フォームの仕様 (ウ)について「1人のものが複数回の回答を防ぐ手法を講じること」とありますが、ブラウザのクッキー等で同一端末からの回答を防止すればよろしいでしょうか。それとも、各学校の生徒数に応じて回答者にユニークなIDを付して個別配布することを想定していますか。	ユニーク ID の個別配布は想定していません。
08	業務仕様書5（1）イ 調査対象に記載する特別支援学校の学校数及び生徒数は、「県内高校に在学する全生徒（見込：220校・132千人）」の内数ですか。	特別支援学校の学校数及び生徒数は「220校・132千人」の内数ではなく、外数としてのカウントとなります。